主審と副審のシグナル

この競技規則に示されているシグナルは、加盟協会に登録された審判員が用いるものとして、国際評議会によって承認されたものである。

ここに示されている主審のシグナルは、広く用いられており、十分に理解されているものである。

主審が決定を下す原因となった反則について、主審は説明したり動作で示したりする必要はないが、ときには簡単なジェスチャーや言葉による説明が、意思の疎通や理解を深めることを助け、より信頼を得られることになって、競技者、審判員の双方にとって有益となることがある。意思の疎通を図ることは奨励されるべきことであるが、反則を大げさに真似することは、品位を落としたり、混乱を招くことになるので、行うべきではない。

主審がスローインの行われるべき場所を指示することは、競技者がスローインを正しく行うことに有効である。「プレーオン、アドバンテージ」という声は、主審が反則を見逃したのではなくアドバンテージを適用したのだということを、競技者に確認させることができる。ボールが他の競技者に触れて、タッチラインを割ったというようなときにそれを示すことも、主審と競技者の間の相互理解を深めることに役立つであろう。より理解を深めることはより協調的な関係を導くであろう。

主審の用いるシグナルは、シンプルで、クリアで、簡潔（ショート）でなければならない。これらのシグナルは、競技を有効にコントロールすることと、可能な限り連続した競技を保障することを意図したものである。競技で次に行うべき行動を指示することを意図したものであって、その行動を正当化するためのものではない。

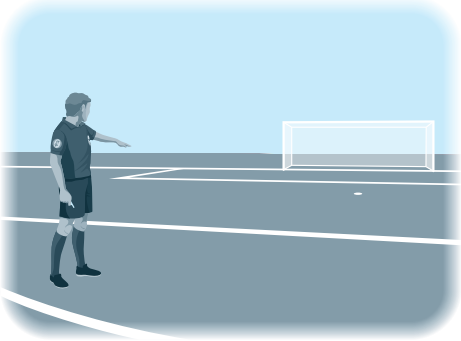
コーナーキック、ゴールキック、反則とその方向を指示するためには、腕で指すことで十分である。間接フリーキックを示すためには、片腕を上げることで明白に理解させることができる。しかし、競技者が直接であるか間接であるかを礼儀正しく質問したときには、決められたシグナルに加えて、主審が言葉でそれに答えることが、その後の理解を深めることに役立つであろう。

主審と副審の任務については、競技規則第５、６条に短く明確に記載されている。

主審の笛、声、手によるシグナル、および副審の旗によるシグナルを適切に用いることが、意思の疎通を明確にし、理解を深めることを助けるであろう。

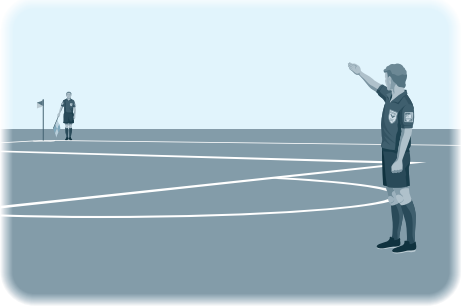
主審のシグナル

スローイン
ボールがタッチラインを越えた場合には、スローインを行うチームの攻撃方向を示す。

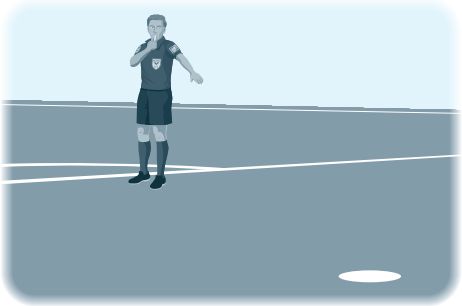


ゴールキック
ゴールエリアの方を指す。

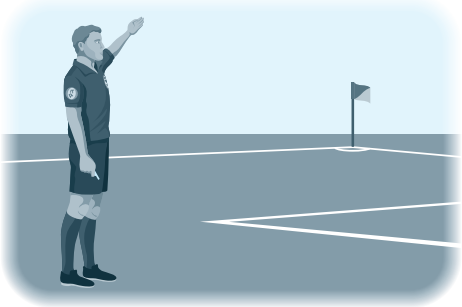
ゴールイン
明らかな得点の場合は笛を吹かずに、センターマークを示す。もし、得点があり、ボールが依然インプレーに見えるとき、副審の旗を確認し、副審とアイコンタクトをとり、笛を吹きセンターマークを示す。



コーナーキック（アシスタントサイドの場合）
副審はいずれのサイドのコーナーキックであっても、コーナーアークを指す。



ペナルティーキック
主審は、はっきりとペナルティーマークを指す。
ペナルティーマークまで走って行く必要はない。



コーナーキック（レフェリーサイドの場合）
キックの行われるコーナーアークの方を指す。
副審側からキックの場合は少し斜め上を指す。

ドクターやトレーナーの入場を許可する合図
負傷者の対応に用いられるシグナル。これらのシグナルはガイドラインに示されているものではないが、競技者が負傷し、ドクターやトレーナー、あるいは担架が必要な場合、これらのシグナルを第４の審判員やチーム役員のみならず、周りの関係者にもわかりやすいように示すことが大切である。

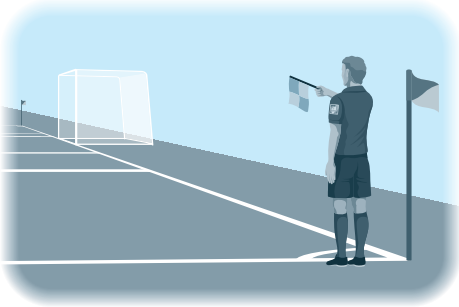
担架の合図

第４の審判員のシグナル

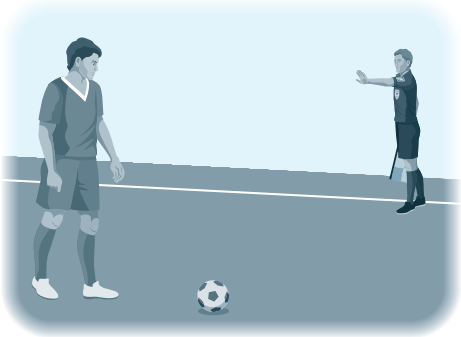
アディショナルタイムの表示

副審のシグナル

ゴールキック／コーナーキック
ボールがゴールラインを越えたが、依然ボールがインプレーに見えるとき、または副審からゴールキックかコーナーキックか不確かである場合、副審は旗を上げて主審にボールがアウトオブプレーになったことを伝え、主審とアイコンタクトを取り、主審のシグナルに合わせる。



ゴールキック
明らかにボールがゴールラインを越えた場合、旗を右手に持ってゴールエリアの方を指す。



壁のコントロール
このシグナルもガイドラインに示されていない。副審の近くで攻撃側チームのフリーキックが行われるとき、守備側チームが壁を作る場合がある。
副審は競技のフィールド内に入り、旗を用いることなく、ボールの後方から守備側競技者が9.15m以上離れるよう指示するのが一般的である。

ゴールイン
主審とアイコンタクトをとりつつ、25～30 mタッチラインに沿いハーフウェーラインに向かってすばやく走る。

ゴールイン（きわどいゴールの場合）
もし、得点があり、ボールが依然インプレーに見えるとき、副審は先ず旗を上に上げて主審の注意を引く。その後、主審が笛を吹いた後、25～30 mタッチラインに沿いハーフウェーラインに向かってすばやく走る。